

# 修身小學

重野安輝  
丹野安輝  
下野安輝  
三田利徳

同輯 閱

卷五

K1101  
98  
5

重野安繹 丹野安繹 下野安繹 三田利徳 同輯

# 修身小學

版權免許

集英堂藏版

發行

## 修身小學卷五

### 第一章

重野安繹 丹野安繹 下野安繹 三田利徳 同輯

己所不欲勿施於人

己之溫思人寒己之安思人艱

○己の欲し望まざること。人よ施し加ふること勿れ。論語

○己の身温かなれば。人の寒さを思ひ己の身安ければ。人の艱みを思ふべし。方孝孺

○人よ對して道を行ふよ。人我に従ふべし。

集英堂藏版

人病舎其田  
而芸人之田  
所求於人者  
重而所以自  
任者輕

言人之惡非  
所以美已言

人之枉非所  
以正已故君  
子攻其惡無  
攻人之惡

身不用禮而  
望禮於人身  
不用德而望  
德於人亂也

君子不責人  
所不及不強  
人所不能不  
苦人所不好

人を責むべからば。たゞ我身に立かへりて

求むべし。大和俗訓

○わが身は。十分は善ならんことを求むべ

し。人の身は。十分に善あらんことを責む

べからば。同上

○人の病は。己の田を棄てて。人の田を芸ま

り。人は求むること重くして。己は任ずるこ

と軽きにあり。孟子

○人の惡を言ふは。己を美はむる所以はあ

らば。人の枉れることを言ふは。己を正しふ

むる所以はあらば。故は君子は。己の惡を責

めて。人の惡を責めば。家語

○己を禮儀を行ふびして。禮儀を人は望み

己の恩德を施さずして。恩德を人は望むは。

亂あり。同上

○君子は人の及むざることを責めば。人の

能はざることを強ひず。人の好まざることを

を苦めば。文中子

修身の道 卷之三 論語 子路第九

人或毀己當退而求之於身

御寒無知重裘息謗無如自修

不患人之不知己患不知久也

內不足者急於人知

○人も己を毀らば退きて我身の過失を求むべし。王祖

○寒を防ぐは毛衣を重ぬるより如くもなく。謗を息るよは身の行を修むるより如くはなし。畜徳録

○他人の己を知らざるを患へば己を他人の善惡を知らざるを患ふべし。論語

○身は不足あるものなり。人は知らるること  
を求るに急なり。韓愈

與人交推其長者遠其短者故能久也

智者之所短不如愚者之所長

不以小惡拚大善不以衆短棄一長

內藏我智不示人技我雖尊高人弗我害

與人善言煖於布帛傷人

○人と交るよ其長むる所を推して其短なる所をされば能く交を久ふするを得。家語

○智者の短なる所は愚者の長むる所は如かば。陸賈新語

○小惡のために大善を拚とば衆短のためよ一長を棄てば。朱子

○我智を内は藏めて人よ技を示さざれば我位尊くとも人我を害せば。家語

○人は善き言を贈るは布帛よりも暖かき

之言深於矛

言願行行顧  
言君子何不  
慥々爾

放於利而行  
多怨

荀子  
り。人を傷害せるの言ハ。矛戟よりも甚し。

○言ハ行を顧み。行ハ言を顧みて。言行一致なるを要すべし。中庸

○思案して物言へば。言語自ら寡し。徒ら口を閉ぢて。言ハざるは。あらば。大和俗訓

○利慾は依りて行へば。人は怨まるゝこと多し。論語

○人心の同トからざる事。其面の如し。人

毎よ心異なれば。人のなま業。我心は適を以て。人を咎むべからば。大和俗訓

○人より無禮横逆を仕掛け。又ハ不順の事ありて。我心は適はざるハ。是即善心を起し。

私欲を忍ぶ。學問の工夫なりと心得べし。同上

○極老は至るまでも。新知の如く。初見の時より。舊識の如きは。何ぞや。其心を知ると知らざるとに由る也。鄒陽

○人を愛して親まむんば。己の仁愛至らざ

白頭如新傾  
蓋如故何則  
知與不知也

愛人不親及  
其仁禮人不

其仁禮人不

答反其敬

るか。と反省せよ。人を禮して答へざらんば。己の恭敬至らざるかと反省せよ。事

### 第二章

凡學非能益也。達天性也。能全天之所生而勿敗之。是謂善學。

○凡そ學問ハ別に増益せむることあるよあらば。たゞ天性を達せむまでなり。能く天生の才能を全くして。之を敗らば。是を善く學ぶと謂ふ。呂氏春秋

有智則好問而樂。無智則自用而憂。

○智者ハ問を好みて樂しむ。無智者ハ自ら用ひて憂ふ。畜徳録

墨子見染素絲者而歎曰。深於蒼則蒼。深於黃則黃。所以入者變其色。亦變五入而以爲五色矣。故深不可不慎也。幼成如天性。習慣如自然。

三人行必有我師焉。擇其善者而從之。其不善者而改之。

○墨子白絲を染るものを見て曰く。蒼は深むれば蒼く。黄は深むれば黄なり。其深めやうに因りて。其色變ず。故は深むることハ慎ざるべからずと。呂氏春秋  
○幼より成ることは天性の如く。習ひなれたることハ自然の如く。賈誼新書  
○三人行へば。必我師あり。其善きものを選択みて之に從ひ。其不善なる者を見てハ之を改む。論語

勿忘入善以  
身取則焉  
々不已惡知  
其非我有也  
勿揚入過及  
躬默省焉有  
或類是亟思  
悔而速改也

前事之不忘  
後事之師  
騏驎一日而  
千里驚馬十  
駕則亦及之  
矣

物速成則疾  
亡晚成則善  
繁朝華之草  
夕而零落松  
柏之茂隆冬  
不衰  
學之深入甚  
於丹青丹青  
吾見久而渝  
矣未見久學  
而渝也

人生幼少精  
神專利長成  
已後思慮散  
逸因須早學  
勿失機候

○人の善を忘むことなうれ。我身の師範となし。勉めて已ざれば。其善我所有となるべし。人の過を揚ぐることなうれ。我身を反省せれば。之は類するものあらん。早く悔ひて速に改むべし。何垣

○前事を忘るをさしむ。後事の師あり。賈誼  
○駿馬一日よりして千里を行くとも。驚馬十日歩みて止まざるべし。亦之は追いつくべし。

荀子

○物速に成れば疾く亡ぶ。晚く就れば善く終る。朝に華くの草は夕にして萎み。松柏の茂るは嚴冬にも衰へば。言徳録

○學問の人を染むるは丹青より深し。丹青は久くして其色變ぢれども。久くして學びて渝ることあるを見ず。真溥

○人の幼少あるとき。精神も専らまきども。年長むる後。思慮外に散るものなり。故に早く學びて時期を失ふべからば。顔氏家訓

卷之三十五

幼而學者如日出之光。老而學者如炳燭之明。猶賢乎瞑目而無見者也。夫人幼而學之。壯而欲行之。

今日不為明日亡貨。昔之日已往而不來矣。光陰可惜。譬諸逝水。

君子之學。必日新。日新者。日進也。不日新者。必日退。

士朝而受業。晝而講貫。夕而習復。夜而計過。無憾而後即安。

○幼ふして學ぶものは。日出の光の如く。老いて後學ぶは。燭火の明に似たり。されども目を閉ぢて物を見ざるに。勝る。同上  
○人の幼ふして學問するは。壯年に及びて。事業に施し行むんが爲めなり。孟子  
○今日事をなさざるを。明日貨を失ふ。昨日の日は已よ過ぎ去りて。再び來ることなし。管子  
○光陰は惜むべし。之を流水に譬ふ。流きて本に返らば。顏氏家訓

○君子の學は。必日よ新む。日に新なるは。日よ進むなり。日に新ならざれば。必日よ退くものなり。程子  
○士の朝よ業を受け。晝よ講究し。夕よ復習し。夜よ至りて過を計り。心残りなくして後



君子之學、必日新、日新者、日進也、不日新者、必日退、



好問則裕自用則小

以能問於不能以多問於寡有若無實若虛

有讀數十卷書便自高大凌忽長者輕慢同列人疾之如讎敵如此以學求益

今反自損不知無學也

知之為知之不知為不知是知也

學問之道無他求其放心而已矣

人才雖高不務學問不能致聖

王積成山則豫樟生焉

安眠也。國語

○問ふことを好めば廣くして裕かなり。自ら用ふれば狭くしてちいさし。書經

○才能ありて不能の人に問ひ智慧多くて智慧寡きものよ問ひ有れども無きが如く。盈つれども虚きが如くす。論語

○わづか數十卷の書を讀て自ら高ぶり長者を凌ぎ同輩を侮るものあり世人これを惡むこと讎敵の如し。これ學を以て益を求

むるも反て損を招く。學をざるよ劣きり。顏氏家訓

○知れるを知るとなし。知らざるを知らずとす。是まことの知るなり。論語

○學問の道は他よあらば其外ふ放を出たる本心を求め納るゝのみ。孟子

○以かよ才高しといへども學問を務めざれば最上の人にたつこと能はば。說苑

○土積みて山をなせば豫樟の大木生じ學

積成聖則富  
貴尊榮至焉  
雖有佳有弗  
食不知其旨  
也雖有至道  
弗學不知其  
善也

天之所生地  
之所養莫貴  
乎人之道  
莫大乎父子  
之親君臣之  
義

孝有三。大孝  
尊親。其次弗  
辱。其下能養

資於事父以  
事母其愛同  
資於事父以  
事君其敬同

事親者居上  
不驕為下不  
亂在醜不爭

孝子事親須  
事々躬親不  
可委之使令  
也

道而不徑舟  
而不游不敢  
以先父母之  
遺體行殆壹

積んで聖徳をなせば富貴尊榮至る。同上

○佳有ありとも食いざれば其味を知らず。至道ありとも學ばざれば其善を知らず。禮記

### 第三章

○天の生む所地の養ふ所人より貴きものなり。人の道は父子の親君臣の義より大なるあり。説苑

○孝道は三あり。大孝は親を尊ぶに。其次は辱めず。其下の能く養ふ。禮記

○父は事ふる道を以て母は事ふれば其愛同し。父は事ふる道を以て君は事ふるに其敬同し。孝經

○親は事ふるものい。上位に居て驕らば下位に居て亂るに。衆人の中は在て争をば。同上

○孝子の親は事ふるものい。事々みな自身はなすべし。之を僕婢等に委ねべからず。呂氏童蒙訓

○大道を行きて小徑を通らば舟は乗りて水は游がば。先父母の遺體を以て殆きこと

出言而不教  
忘父母

親老出不易  
方復不過時  
親齊色容不  
盛

父母在不遠  
遊遊必有方

樹欲靜而風  
不停子欲養  
而親不待

往而不來者  
年也不可再  
見者親也

何事心也 卷之五

修身新編

をせむ。一たび言を出さよも。父母を忘れず。  
禮記

○老親内よあまむ。出るよ方角を易へば。反  
るよ時刻を過さば。親若し病あれば。憂ひ顔  
色容貌に見えむ。同上

○父母在まるときは。遠き所よ遊むに。遊ぶよ  
も。必定りたる方よ於てに。論語

○樹静まらんとまれども。風止まば。子養ひ  
んとまをども。親在さば。家語

○過ぎ去りて來らざ  
る者は年なり。再び見  
ゆべからざるものは  
親なり。同上

○父母存生の日。孝養  
を致さずば。父母死し  
て後。何如し悔ゆとも  
かへるべきや。縦ひ山  
海の珍味を供へて祭



修身新編 卷之五

十

修身新編 卷之五

兄弟者分形連氣之人也方其幼也食則同案衣則傳服學則連業遊則共方

見父之執不謂之進不敢進不謂之退不敢退不問不敢對

夫温恭自虚爲子弟者所當先服行也是乃接人倫爲善之始也

朋友切々悃々兄弟怡々

獲乎上有道不信乎朋友不獲乎上矣信乎朋友有

るも生前の蔬菜に劣るべし。六諭衍義大意

○兄弟は體を父母より分け得て。氣血を同くするものなり。其幼きときは。食は案を同くし。衣は傳へ服し。學べば業を俱し。遊べば處を共し。顏氏家訓

○父の友は見ゆるときは。進めといわざれば敢て進まず。退けといわざれば敢て退かぬ。問わざれば敢て對へば。禮記

○先祖を尊び。時節の祭禮おこたるべから

ず。親戚を厚く親しむべし。親戚は疎くして他人より親しむべし。逆をり。家道訓

○温和にして恭しく。自ら心を虚ふするは。子弟の第一の行なり。これを人倫に接するは。善をなすの始と云。慎思錄

○朋友の懇切を主とし。兄弟の和悦を主とし。論語

○上の人より用ひらるるは道あり。朋友より信ぜらざれば。上の人より用ひられず。朋友に

孝弟、信、友、義、廉、恥、節、儉、忠、信、悌、勇、剛、毅、溫、良、恭、儉、讓、廉、恥、節、儉、忠、信、悌、勇、剛、毅、溫、良、恭、儉、讓

道不順乎親  
不信乎朋友  
矣順乎親有  
道友諸身不  
誠不順乎親  
矣

求忠臣必於  
孝子之門  
受入之恩不  
忍負者其人  
必忠孝

君子百行之  
中報恩爲大  
人若忘恩  
其餘不足觀

信ぜらるゝに道あり。親族も順ならざれば。朋友も信ぜられず。親族も順なるは道あり。身も反省して誠あらざれば。親族も順ならぬ。中庸

○忠臣を求むるは。必孝子の門に於ては。後漢書

○人の恩を受けて。負くに忍びざるもの。必忠孝の人なり。司馬光

○君子の百行に於て。恩に報ゆることを大切なりといふ。人も恩を忘るゝことあらば。

也

其他の行の觀るよ足らば。慎思錄

○國法を畏れ守り。上たる人の行。又ハ國家の政を譏るべからば。是れ不忠不敬の至なり。家道訓

### 第四章

凡治己必先  
治心。心者舟  
之舵也。欲正  
其舟而不正  
其舵可乎。

敬以直内。義  
以方外。

○己を治むるよハ。必先心を治むべし。心の舟の舵なり。今舟の針路を正さんとせむるよ。其舵を正さむして可ならんや。畜德錄

○敬を以て心を直くし。義を以て行を正し

常沈靜則含蓄義理深而應事有力

○平常心を沈靜よまをば。義理を含み蓄ふること深くして。事を處置せざるも力あるなり。薛瑄

志遜則日見其不足而虚心以受天下之善

○志推し遜れが。日よ己の足らざることを知りて。虚心よして天下の善を受く。畜徳録

學者所患在志向弗專不在才力不足

○學者の患ふる所は。志向の專一ならざるよ在りて。才力の足らざるよあらば。同上

學者有志於道須要鉄心

○學者道よ志あらば。其心腸を堅くせること鉄石の如くなるべし。同上

石賦

○心は身の主よして。萬事の本根なり。故よ心正しからざるべし。身修らざして。家を齊へ人を治め難し。大和俗訓

○平生の氣象は。從容と一づかよ和樂なるべし。輕卒急迫なるべからば。和樂は人心よ生きたる天性あり。同上

○堪忍もなきは事濟り。受け容るなきは徳大なり。書經

必有忍其乃有濟有容徳乃大

...

小不忍則亂  
大謀

○小事は堪忍せざれば。大切なる謀を敗る。  
論語

○堪忍の無事長久の基にして。怒の敵とおもふべし。  
東照公遺訓

○怒り盛なるとまじに。堅く堪え忍びて。心平かふるを待ち。是非を

須於盛怒時  
堅忍不動候  
心平審而應  
之庶幾無失



善徳傳  
出づる

知足不辱  
知止不殆

山上有澤咸  
君子以虛受  
久

士志於道而  
耻惡衣食  
者未足與議  
也

志於富貴則  
敗度敗禮不  
足以語功名

審よして處置せられ。過失なかるべし。許平仲  
○足ることを知るべし。辱しめらるることなく。止ることを知れば。殆きことなり。老子  
○君子は己の心を虚ふして。益を人よ受く。  
易經

○士の道は志して。衣食粗悪なるを耻るゑの。共よ道を議るよ足らば。論語  
○富貴は志せば。法度禮節を敗る。共よ功名を語るよ足らば。善徳錄

居安思危思  
則有備有備  
無患

丈夫為志窮  
當益堅老當  
益壯

君子樂得其  
道小人樂得  
其欲

心誠有可樂  
雖微物皆足  
娛乎心其中  
無可樂者雖  
至可樂之物  
亦適以增其

○安樂は居て危難あることを思ふべし。思へば備あり。備あれば患なく。左傳

○大丈夫の志は窮して益堅く。老て益壯なるべし。馬援

○君子は其道を得ることを樂み。小人は其欲を得ることを樂む。禮記

○心中誠は樂めば微物といへども皆心を娛む。心中樂みなけむば樂むべきものといへどもたゞ其累を増す。方孝孺

漢明帝問東  
平王蒼處家  
何以為樂蒼  
曰為善最樂

反身而誠樂  
莫大焉

内省不疚夫  
何憂何懼

水至清乃無  
魚人至察則  
無徒

○漢の明帝東平王蒼は問て曰く。家は居て何を樂むや。蒼對て曰く。善をなはすと最樂し。後漢書

○身は立返りて。誠實なまむば。樂こそより大なるいあり。孝

○心に省みて。疚しからむ。また何をか憂ひ。何をく懼れん。論語

○水餘りに清ければ。魚なく。人餘りに苛察なれば。人就かば。家語

修身小學 卷之五 十五 養身之道



以道制欲則樂而不亂以欲忘道則惑而不樂無替之言勿聽希詢之謀勿庸

分人以財謂之惠教人以善謂之忠

濟困人者自奉薄奢於身者惠不及其親

有而不施窮莫之救也有恩窮則務施

○道を以て欲を抑ゆれば。樂みて心亂まじ。欲を以て道を忘るれば。惑ふて樂まじ。禮記  
○証據なきの言ハ。聽くことなかれ。問ひ質さざるの謀ハ。用ふることあらず。書經

### 第五章

○人よ分つ小財を以てするを惠といひ。人に教ゆるよ。善を以てするを忠といふ。季子  
○人を救ふことを樂む者ハ。自ら奉むるよ。薄く。身よ奢るものは。親戚たも惠まじ。畜徳録

○財ありて施さざるべ。困窮せるとき。我を救ふものあり。故よ困窮の時を思ふ。施を務めざるべからじ。家語

○財多き人ハ。尤父母よ厚く。親戚朋友の乏しきを賑ふ。貧しき人を助け。飢寒を救ひて。廣く人を愛し。善を行ふべし。家道訓

○富貴の家よ。貧賤なる親戚の出入するは。主人仁愛の厚きこと著きを。其家の面目とまじく。同上

稱家之有無  
裁省冗費禁  
止奢華常須  
稍存贏餘以  
備不虞

夫施德者貴  
不德受恩者  
尚必報

教不可長欲  
不可從

位不期驕祿  
不期侈恭儉  
惟德無戴爾  
儻

儉而能施仁  
也儉而寡求  
義也儉以為  
家法禮也儉  
以訓子孫智  
也

嗜慾萌生遂  
後必悔

修身小學 卷之五 家法

○財を貯へて餘りあらば人よ益ある事に  
用ふべし。無益の營みをなして財を費まひ  
いたづらごととなり。同上

○家財の有無を計り。冗費を省き。奢侈を止  
め。常に餘分を残して。不慮の費に備へよ。温公家範

○餘財なれば。不慮の變に應むることか  
たく。人の困窮を救ひがたし。家道訓

○徳を施す者。自ら徳とせざるを貴び。恩  
を受る者。必報ゆるを尚ぶ。說苑

○教は增長まへからび。欲の氣隨よまへか  
らび。禮記

○位高けまへ自ら冗ぶり。祿多けまへ自ら  
侈る。恭儉の徳を努めて。偽りをたすことな  
かき。書經

○儉にして能く施す。仁なり。儉にして求  
め寡き。義なり。儉を以て家法とまする。禮  
なり。儉を以て子孫を訓ゆる。智なり。倪元璐

○嗜慾の念をさせむ。其事を遂ぐるの後。必

修身小學 卷之五 家法 七

不從耳目百  
度惟貞

人有慾則無  
剛剛則不屈  
於慾

禍莫大於不  
知足咎莫大  
於欲得

悔あり。陳幾亭

○耳目の爲よつかまれずば。百行自ら正し。  
書經

○人慾あまむば剛氣なり。剛氣なれば慾は屈  
せむ。近思錄

○禍は足ることを知らざるより大なるは  
なく。咎は得ることを欲するより大なるは  
なし。老子

○萬町の田を持つも。日は食むるに三度に

存亡禍福其  
要在身聖人  
重誠敬慎所  
忽

積善而望報  
於天者無福  
施恩人而求  
報於人者無  
德

過ぎび。千間の屋は住むも。夜の眠は八尺は  
止るとあれは。常に我は事たるやうを知て。  
外を求る心あるべからむ。六論行義大意

○存亡禍福の本は。一身の行よよる。故に聖  
人のよく誠めて。忽に易きところを慎む。  
說苑

○善を積むとも。報を天に望むもの福な  
し。恩を施すとも。報を人に求むるもの徳  
なし。賈石葵

凡善必積而後成今人小爲善而不得效則善爲無益而舍之不修薄之甚也  
有陰德者有陽報有陰行者必有昭名

○善は積て後よ成る。今世の人少く善をふして。其效を得ざるは。善を無益となして行むず。輕薄の甚しきものなり。慎思録  
○陰よて恩徳を施せば。何らいなる報ひあり。かけふて善行をなせば。明らかある名譽あり。淮南子

修身小學卷五終

明治十七年七月廿六日版權免許  
同 年九月 四 日出版

定價全銀壹圓

編輯人

東京府士族

丹所啓行

東京府士族

下啓助

同

東京府士族

三田利徳

出版人

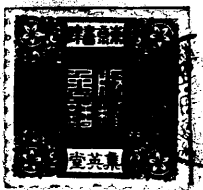
東京府士族

小林八郎

發行者

野州宇治町大工町

集英堂支店



# 修身小學

重野安繹  
丹野啓行  
三下丹重  
田所野安  
利啓啓安  
徳助行繹  
同輯 閱

卷六

K110.1
98
6